ード代りに使ふことにした。表は印刷してあるから、裏の白地へ一枚づゝ縦横に線を引いて、姓名、年齢、男女別、配偶關係、子供の有無、女中、店員、といつた具合に書き込めるだけの欄を設けた。

□

後日之は大いに整理して、更に立入つた工風をして見やうと思ふ。差當り先づ男女別、年齢別、配偶關係ぐらゐを知つておけば宜からう。明日は日那に乞うて、税務署行きを許して頂くのだ。町内の人々の職業と税金の納め高を調べてくるのだ。

コンナ仕事は、役場や税務署へ行かなくても、分る道があるかも知れない。手續はどうでも、目的はカードをつくるためだ。店へ御出で下さる御客様へも御願ひして、芳名錄へ御ところ番地と御姓名を書き込んで

頂くことにした。

□

斯うして今までのやうな『店頭勝負』から一歩踏出すことにすれば、雨降りの日を利用して、なにくれとなく、先方様の御思召に叶ひさうな文句で、通信文を出すことが出來る。數が多くては一々書いても居られまいが、タカの知れた五六百通の手紙を書くのに、骨の折れる譯はない。店中氣を合せて、思ふ存分のおたよりを御客様へ差上げるのだが、何程か御愛嬌にもなるだらうし、常得意も殖えるに相違ない。

三　日（晴）

二日續きの雨で、空氣は綺麗に洗濯されたから、朝の氣分は何とも云へない。御臺所番が氣を利かせて、鶏骨のダシで味噌汁をつくつて呉れ

た。麥飯で此味噌汁と來ては文句なしだ。旦那くらゐ店員の食物に氣をつけて下さると、働き甲斐があるといふものだ。旨いものは矢張り旨いよ。御恥かしい次第だが、旨いものを頂くと人一倍精が出るやうだ。人間といふものは弱いものさね。其處を内の旦那は百も呑込んで、吾々に力のつくやうな食物を下さる。食物のことなどはグズ〳〵云ふものでないと、良く恐ろしい顏で睨める御主人もあるさうだが、少し氣をつけると安くて滋養になる食物が、皆の衆で樂めるのだ。

店のAどんが今朝から青い顏をして大儀さうだ。例の脚氣ぢや無いだらうか。近所にも大分脚氣で難儀の小僧さんが居るやうだ。旦那は何時でも皆んなの通じ具合を氣にして居られるが、丈夫な人でも通じが留まるとイケないさうだ。殊に脚氣病に便秘は良くない。世界でも人に知ら

れた心臟病專門の大家コーンといふ方は、無病長命の秘訣は腹六分目に食物を攝り、必ず毎日通じのあるやうにするのだと云はれたそうだ。胃袋へウンと目方がつかなくては承知の出來ぬ人もあるが、之はイケないのだ。良く嚙んで獨りでに食物が胃の中へ流れ込むやうにすると、自然獨りでに流れ込めぬものを吐き出す癖がつく。之が大層理屈に合つた物のたべ方だと伺つた。成程さう言はれて見ると、私の齒は伊達や飾りに生えてるのぢやない。一本一本それ〴〵の用向を足すためだ。「前齒で大切り、臼齒でスリ潰す」といふことさい聞いた事がある。之から食物の鵜呑は禁物だ。良く嚙んで居る内に自然胃袋が滿足するんだから、それに越したことは無い。通じの良くなるのは、之で保險つきも同樣だ。尤も野菜物をなるべく多くたべることが必要だ。

□

昨日のカードを纏める都合で、税務署へ出かけた。近頃の役人衆はホントに奉仕といふことを心がけて來たやうだ。私のやうな小僧をさへ立派に一人前の人間と見て下さる。私は昨日調べた御近所の衆の納税額を寫して來たかつたのだ。税金の納め高によつて、其御方の暮し具合が分るものだ。お買物の程度も、大ざつぱに見當はつく譯だ。

親切な御役人の御骨折で、ドウヤラ分るものは分つた。歸店してから人名カードへ納税額を書き込んだ。之でカードも一と通り間に合せものが出來たから、敷島の大箱を貰つて來て中へボール紙の仕切を挾み、イロハ順に之を殘らず仕舞ひ込んだ。サア之で陣立ても幾らかついて來た。

□

だが待てよ、カードをならべただけでは面白くない。五百五十軒を家族の人數で分ける必要があるのだ。十人世帶が何軒、五人家族が何軒、獨身者が何軒、新婚夫婦が幾組、七十以上の老人が何人と云ふ風に統計といふものを取つて、何もかも一枚の表を見れば分るやうに整理して見るのだ。斯ういふ表をつくつておくと、商賣と暮し振りなどで、如何なる品物を何時かは御入用の時があるといふ見當が、何程かついて來る譯だ。御近所一同の商品仕入係だと云ふ意氣組だとすれば、此案内表を見て仕入品の伸び縮み加減が出來るのだ。仕入が樂になつて、品物の持越しや棚古しが少くなる譯だ。

□

店はよろづやだから萬人向きの代物が備へてある。恰度仕入品が東京

から着いたから之を一とつ御近所へ知らせて上げやう。いろいろ文句を考へて見たが、思案に凝ると却て良くない。突然御來店の御客樣へ卽座に御披露いたす心意氣で行らなければならない。私は試みに次の文句で十本手紙を書いて自分で配達した。

『今朝東京から新仕入品二十通り手に入れました。現に唯今荷物を明けて、店内右側の棚へならべて居ります。必ず御目に留まる品物が二三通りはある筈です。御夕食後御立寄り下すつて御品評を願上げます。参りました品物は左の通り、(品名と數量と代價をかき込む)。明けたてのホヤ〳〵を御持歸り願ひます』

四　日（晴）

昨日の上天氣で、大分ホコリが溜つたやうだ。イツもより精出して商

品を掃除する。今日も好日和だし、一層土間を注意する。

□

昨日配つた十本の通信は、美事に手答があつた。アンナ不躾の手紙を御咎めもなく、御一人としてイヤなことは仰しやらない。却て勉强振りを喜んで下さる方が多い。矢張り御客樣はコチラの苦心を買つて下さるものだ。

あゝいふ御手紙を態々差上げて御來店を願つたのだから、現金を頂だかなくても掛け勘定で好い筈だ。其處はコチラも如才なく、例の統計表やらカードやらで、先樣の御身柄を先刻承知で十人選り出したのだ。現金を頂だかなければならぬやうな御客樣へは、アレと同じ文句の御手紙を差上げない。

□

旦那の御承諾もあつた事だし、店の衆も好からうといふ說だつたし、旁々私は昨日の通信狀へ「信用劵」といふのを添へておいた。聞けば外國では、掛賣の便利を餌に御客を釣るため、內々信用調べをしてから、確實な向へは勸誘狀へ貸賣證明札を添へて送るさうだ。此證明札は文久錢のやうな迷子札然としたもので、之を持つて其店へ買物に行けば、晦日勘定で何でも買へる。尤も大きな百貨店などでは、證明札を無限に通用させないさうだ。アメリカの百貨店の定めは、賣場一ヶ所につき、十ドル以上四十ドルまで、此札を見せて掛け買が出來るといふことだ。萬が一にも、札を落したり盜まれたりして、他人の手へ渡つてから濫用されると、飛んでもない勘定を持主が背負込むことになる。コンナ眞似

をして間違でも起つては大變だから、私は信用劵を御屆けしておいた。早く言つて見れば、御用聞きの無理に押つけて行く通ひ帳のハイカラ式なのだ。信用劵の裏へは、違慮の無いコチラの存じ寄りを書いて見た。

「後日御勘定を頂くことにして、毎月金百圓までは、何品に限らず御持歸り願ひあげます。御買物の節は此信用劵を御示し下さい。御急ぎの場合、此信用劵を御利用下さると、別して御便利と思ひます。商賣は現金本位に限るやうですが、未永く御贔屓を願ひたいが一心さに、失禮ながら態々之を御手許へ差上げておきます。」

間に合はせに作つた信用劵であるから、之は後日少し叮嚀な印刷書式を工風して、方々へ配つて見たいと思ふ。

□

十本の手紙を見て、態々御來店下すつた方は八名様であつた。ナンノカンノで合計百二十七圓程の商なひをしたが、初日にしては、先づ大出來だ。

□

午後二時頃でもあつたらうか、店員のH君が御客様から盛んに御小言を頂いて居た。

「お前さん私を女客だと思つて、馬鹿にして居るのではないか。此間中から度々來ても品切れだと云ふから、それでは取寄せて下さいと頼んだら、委細承知しました、スグ東京から取寄せて差上げますと云つたぢやないか。モウ二度とお前さんの店では買ひません。」

とお叱り聲が聞こえる。八ケましく言つて下さる御客様に限つて、善惡

共に良く廣告して下さるものだ。氣むづかしい御客様を宥めて機嫌を直させる位、愉快な仕事はないものだ。成程中には隨分不理屈を仰せらる方もあるし、コチラの蟲の居所が惡かつたりすると、ツイ善くないと百も承知しながら、筋の違つた御相手をいたす場合もあるが、此所が大事な點である。非難を與へて下さる御客様は、其店が抑も御贔屓で入らつしやるからこそで、愛想のつきたものなら、何一つ仰しやりはせぬ。小言の出るうちが花である。缺點を示して頂けば、スグそれを再び繰返すまいと注意する。

□

それにしても、H君のやうな空約束で御客様を釣つてはならない。品物の無い時「お生憎さま、スグ取寄せて置きます」などいふボンヤリし

たカラ約束をしてはならぬ。之では御世辭にも御愛想にもなりませぬ。約束するが否や忘れて了ふ一の泡沫である。之は一歩進んで、客の尊敬を失はぬやうに、カラに實を結ばしめねばならぬ。

□

私はH君と相談の上旦那の御許しを乞うて店内へ約束部といふのを設けた。御客様へ一旦御約束したものは必ず實行するのだ。口頭で約束したものは、必ず一定のカードへ其委細を書き上げ店員から約束部へ廻させることにした。約束部では毎日一同から提出して來る約束書を整理して、約束の履行に必要の手續を執るのだ。

「只今持合はせて居りませんが、明後日までには必ず取寄せて御届けいたします」と、一度口出した以上、其約束通りの商品名、期日、代價、

係店員其他の件をカードへ記入し、約束部へ出しておく。之を如何に取捌くかは、常識でも分をことだが、念には念を入れて、期日通り誤らず其品を間に合はせなければならぬ。カラ約束をモノにすることは、今後實行して貰はなければなりまん。

五　日（晴）

今日は妙なことに氣がついて、大に發明する處があつた。

吾々商店界にあつて眞劍に働く人々は、實に細かい點に意を留めて居なければならぬ。

午前中、店の主任は精を出して頻に書面を認めて居られた。近在の御得意へ出す手紙のやうだつたが、軈て認め終つた五六通の書狀を手にして、御自身郵便函へ入れに行かれた。イツもは、小僧に投函を命ぜられ

ることになつて居るのに、今日に限つて、至極氣輕に下駄を引つかけて店を出られた。主任は商業學校を卒業して此店へ來てから、八年間勤續して居る。月給其外手當等を合はせると、月三百圓にはなるさうだ。一日十時間勤めるとして、之は一時間一圓に當る譯だが、態々郵便を出しに行くと、彼是十五分は費すから、先づザット廿五錢は消える勘定だ。小僧で濟むことは、小僧に命じたら宜かりさうなものだ。店では、小僧一名につき、毎月手當やら食料其外で四十圓支出して居るから、十時間勤めと見て、一時間十三錢强、十五分間三錢强に相當するのだ。三錢ッコツコの御使ひで濟むものを、何も態々廿五錢の主任が自分で、出掛けなくても宜いではないか。世の中には何んでもかでも、自分でやらなければ承知の出來ぬ人がある。他人を信用せぬといふ譯ではあるまいが、

唯何となく人に仕事を任せるのが辛いのだ。

□

仕事が大きくなれば、勢ひ事務を分擔して、手は手、足は足といふ風に、人々の分相應な働きを括つて參る筈だが、小さな店でも二人以上勤めて居る處では、銘々の持役をチャント決めて、みんなの力を一つに集めるが宜いと思ふ。何程エライ人でも、一人前の力と云つたら知れきつたものだ。如何に資本を澤山下した店でも、御主人萬能では、店の仕事も、其御主人の器量以上には發展しない。どうしても、店中の力を一つに纏めて强くなる工風が肝腎だ。

□

此間後藤新平子爵の演說を聞きにいつた時、子爵は組織の力と云ふこ

とを力說なすつた。人間は三十人寄り集まつても、テンデンバラ〳〵に力を出したのでは、三十人力にも當らないが、此三十人を一と纏めにして、銘々の向々次第働かせると、百人力以上だと云ふ御話しだ。成程、之は私共にも良く解る理屈だ。親玉一人だけでは、ドンナ仕事でも碌な成績は得られない。幸ひ店の大將は、大きい處があつて、任せる處はチヤント任せて下さるが、今朝の主任君の態度は少し腑に落ちない。旦那も曾ては矢張り、萬事御自分でなければ承知の出來ぬ方だつたさうだ。仕入も、店賣りも、帳面も、店の掃除も、御自分が行はないと氣に入らない。人に任せたら宜からうにと、御親戚が傍から注意もしたさうだが何分不安神でそれが出來ない。

その内に、フトした病氣が嵩じて病院へ入ることになつた。店に殘つ

て居たのは、女事務員一名と小僧さんが一人きりであつた。旦那は入院中も氣が氣でない。早く退院して店へ歸らなければ、折角芽を吹きかけた商賣が枯れて了ふと、一方ならず焦られたさうだ。

然るに愈々三月目に退院して、歸店して見ると、山のやうに支へて居る筈だつた留守中の仕事は、綺麗に片づいて居た。商ひ高も別に減つては居らず、品物も相應に揃つて居た。僅に其日の午前配達された手紙が二三本、旦那の机上に載つて居たのみであつた。帳面も別段つけ落ちがある樣にも見えず、銀行の勘定もキチンと合つて居た。旦那は女事務員に、御自分の机に載つて居た手紙を御渡しになつて、其返事を書かせて見た。返事の文言を見ると、旦那の御意見に一致して居た。其内一通だけ附け足しをしただけで、アトは全部旦那が書いても事務員が書いても

同じことだつた。

□

斯うなると、旦那は手持無沙汰だ。

『ヨシ〳〵之は面白い事だ。之からは人に仕事を任して、自分は商賣の發展策を講ずるのだ』と仰つて、間もなく○○町へ第一支店を開かれたのだ。病氣の御蔭で貴とい教へを受けたと、始終吾々に御話しがあつた。組織の力を覺らぬと、仕事は瞬く間に行詰まる。

六　日（續いて上天氣）

大分と日和がつゞくので、空氣が乾ききつて居る。今朝はイツモより水を一杯餘分に飲んだ。通じも申分がない。御蔭で一日良く働けた。

□

御向ふの店は又復例によつて、大きなウソを窓廣告へ書きちらして居る。ウソをついて客を釣るなどは今日の商店の執るべき道ではない。何事も眞實に勝つものはないのだ。ナンデもカンデも品物を御客へ渡して金と引替へればそれで良いと云ふ時代後れのヤリ方は、眞似たくない。それにしても御客様は良く僞されるものだ。近頃出版した廣告學の書物を見ると面白い一話が紹介されて居る。それを一つ此處へ記して置かうか。

□

それはアメリカの或銀行が、世間の人の慾の皮の突ッ張り具合を試驗して見やうといふ目的で、途方も無い夢廣告を試みた一事だ。猫を澤山飼つて、その皮を賣つたら大儲けが出來るといふ趣旨だ。銀行が其窓先

へ出した大きなポスターには、猫飼ひ事業の趣向が麗々と記してある。

スグ唯今成金になれる素敵な機會

加州の地を卜して一大飼猫場を起さんとする加州農場會社へ投資せられよ。

本社は、無比の天惠に浴する加州に、猫十萬疋を以て、一大養猫事業を開始する計畫であります。猫一疋の繁殖力は年十二疋の平均であります。一疋の猫は毎年十二疋の小猫を生むのであります。猫の皮は一枚三十仙で賣れます。百人の人夫は一日に良く五千疋の猫の皮を剝ぎます。ですから、本社の儲けは、一日に純益、驚く勿れ、正に一萬ドルの豫想であります。

さて猫には何を喰はせたものでせうか。

本社は隣接地へ百萬疋の養鼠場を設けます。ネズミ一疋は猫の十二倍子を生みます。生れたネズミは、毎日猫に喰はせてやります。斯うして猫の餌になるネズミには何を喰はせたものでせうか。それはナンでもない。皮を剝いだ猫の死骸をたべさせてやるまでゝす。

さて此所が急所ですぞ、良く注意して下さい。

本社は猫をネズミで飼ひ、ネズミに猫を喰はせ、そして猫の皮を無料でとるのです。ナント旨い話ではありませんか。

本社の株は一株五仙(十錢)、スグ相場は騰る見込みです。斯ういふ又とない金儲けの機會が、鼻先へブラ下つて居る時に、株を御買ひなさい。

加州農場會社

此珍妙不思議なポスターを、銀行は其窓へ出して見たのだ。それでも萬一を懸念して、銀行は更に其ポスターの下へ大きく目につき易い文字で、左の文句を添へたのだ。

『欺かれ易い人は、このやうな目論見の株でも、スグ買つて見やうとなさる。言ふまでもなく此廣告は捏造であります、つくり事であります。それにしても現に之と同様の山猫式事業は、毎日世間を瞞して居るのです。大事な資金を投ずる前に、何事も先づ良く調べなくてはなりません。

口前の上手な見も知らぬ他人の勸誘につられて、無暗に金を出してはイケません。』

銀行の前は大層な人立ちがした。折角銀行が之は冗談であると斷つて

置いたにも拘はらず、態々手紙をよこしたり、自身出掛けたりして、此夢のやうな事業を眞面目に受け、株を買ひたいとか、目論見書を呉れとか申込んで來た人も、澤山出て來たさうだ。餘り藥が利きすぎたのを見て取つた銀行は、早速此ポスターを引込ませて了ふた。

態々瞞されるために此世へ生れて來る人間が、一分間に一名宛はあるさうだ。之を良い事にして、ウソ八百の廣告で人を釣る商店もあるやうだが、さても罪なことだ。

□

百貨店王と呼ばれて居た故人のワナメーカーは、或時、廣告の大家に向つて

『何か新しい廣告の仕方を敎へて下さい』

と問ふた。問はれた人は言下に答へた。

『正直第一です、眞實を語るのです。之は今迄誰もやつたことがありません。ですから之が一番新しいやり方です。』

新聞を見ても、看板やポスターを見ても、衷心眞實を語つて居る廣告は少ないやうだ。自然正直な廣告は一番新らし味のある廣告だとも云へる。正直に其内容を告げて客のつかぬ商品は、扱ふ譯に行かぬ。又其内容を正直に打明け得ざる商品は、店へ引取つてもしやうがない。

七　日（晴）

朝早く旦那に何か面白い趣向はないかと問はれた。家の大將は、店の者を良く勵まして、上手に意見やら趣向やらを聞いて下さる。私は昨日の日記に書いた猫會社の話をした。旦那は頻りに笑つて居られたが、軈

で眞顏に言はれた。

『御客樣を少しでも欺いてはなりません。御客が無ければ店は立ち行かない。之は誰でも申すことであるが、一層良く味はふて見るのだ。』

なる程、私達も一生懸命になつて考へ直し、少しでも御客樣に誤解を與へるやうな言葉を使はぬことにしやう。餘計な御世辭を言ふたり、言葉數を多くしたりして、ツイ賣り損ずる場合もあるものだ。その昔の賢人も云ふた通り、

『人は唯一枚の舌を授かつたのみであるが、耳だけは二つ授かつて居る。それは口を利く分量の二倍、他人から物を聽かんがためである。』

實に賢い事を申されたものであるが、偖て其場になると、ソンナ事は忘れて了ふ。情けない事だ。口を利くと云ふ事は、大部分自分の豫め知

つて居る事柄を蟲干するやうなものだ。

□

何程喋つても、自分の知識に子供や孫が殖える譯のものではない。人の云ふことを靜かに聞いて居れば、必ず何程かの獲物はある。私は旦那に申上げた、どうか毎晩一時間づゝ、店員一同無言で人の話を聽く稽古をさせて頂きたいと。順番をつくつて、本や雜誌の面白さうなものを讀ませ、毎晩それを一人が一同に聽かせてやる。兎に角我々はボンヤリして居ると世の中に後れて了ふ。聽きたい事、知りたい事は山程あるが、之を代り番に立つて話させる。名を擧げた人は、青年時代に朝から晩まで、機會のある毎に、人を捕まいてはモノを聽くことに屈託する。何につけ彼につけ、根掘り葉掘り物事の根本を究めやうとしたものだ。

但し誤解してならぬ事は、無言と聽き上手との間に區別のあることだ。默つて居る人が必ずしも聽き上手とは云へない。

□

聽き上手とは人の話の急所折目を心得て居て、上手に合槌を打つのが、それである。耳を澄して聞く人は常に兩耳を用ゐて居る。兩方の耳から吸込んだものは、必ず腦味噌中へ腰を据ゑる。それを煮たり燒いたり、色々と料理した揚句が、本人の行動となるのだ。眞面目に人の話を聞き取る人は、命令をよく守る。支配人なり主任なりの言ひつけを、上の空で聞く人は、概してお喋べりの早呑込みに多い。近所を見廻すと、ソウ云ふ人が澤山居るやうだ。

□

一を聞いて十を知ると云ふ事もあるが、一の半分を聞いて甲斐々々しく用達に飛出し、二度も三度も無駄足を運ぶ連中がある。電話をかける人の聲は、送話器を經て傳はる。先方には受話器といふのがあつて、それを耳へあてる。默つて相手の云ふことを聞いて居るから、片耳でも話が良く呑込める。人の命令、名士の談話、名僧の說敎を上手に聽かうとするには、受け身の稽古をせねばならぬ。柔道の稽古には、受け身が大事である。物を聽く時の受け身は、相手の話を頭の中へ受入れ格納すべき習慣を養ふのである。

『默つて聞け』とは良くも云つたものだ。舌の取締をよくせぬと、良くは聞けない。

□

或雜誌の編輯長は、實に立派な耳の所有者であるさうだ。其方はドンナ人からでも話を聞かうとなさる。此人にかゝつては、大抵の人が何もかも一切さらけ出して了ふ。巡査、汽車のボーイ、質屋のオヤジサン、謂ゆる御歷々の名士諸君、誰も彼も、此人に打明け得ざる人は一人も無いと聞いた。果してこの聞き上手の編輯長は、僅々二三年間に發行部數三十萬程の雜誌を、貳百萬部以上に增し得たのである。

御客樣を相手に喋り過ぎるのは宜しくない。成るべく先方の仰せを神妙に聞くやうな癖をつけなければならぬ。よく聽く功德は覿面、其利益を金錢に換算することが出來る。

聞けば人は啓發する。聞けば、人は敎へられる。誰にしても喋る人間よりは、モノ腰の穩な口數の少ない人を好む。之が人情である。人のお

喋りを喜ばぬ本心は、自分が喋りたいからでもあらうが、さても淺ましいことだ。

□

店員は舌三寸を資本に仕事をして居る場合もある。然し頭拔けて仕事の成績を擧げるものは、此資本の舌三寸を、なるべく使はぬやうにして居る人に限るやうだ。

聞く稽古を目的の輪讀會は旦那の賛成で成立した。

八　日（晴）

氣持のいゝ朝だつた。例の向ふ店の大將、朝から無性に店の衆に小言を喰はせて居た。往來の人は立止まつて面白さうに之を聞いて居た。癪て大將、喞へ莨でコチラの御店へやつて來た。ウチの旦那をつかまへて

は頻りに自分の不平をならべて居たが、實に聞きぐるしいものだ。自分の店に使つて居る店員の惡口を、其主人ともあらうものが、他人に吹聽して居るなどは誠に困つたものだ。

自分の部下を叱るのも結構だが、それを他人へ御披露することだけは止めて貰ひたい。それ程氣に入らぬ人を、どうしてつくつたのだ。店員の善くないのは、凡て主人の罪だらう。自分の未熟を棚へ上げて、主人次第で如何やうにもなる店員をコキおろすなどは、抑も間違の骨頂である。

□

店の旦那を見て分ることだが、矢張り溫情主義とやらが本當だ。人間は神樣とちがつて、感情の動物なのだ。溫かい氣持で可愛がつて下さる

主人は、必ず店員から慕はれるにきまつて居る。

店員は主人の身代り格なのだ。身代りと云へば、本人も同然だ。その大事な人間をつかまへての木石扱ひは、第一間違つて居る。隨分大きな會社の社長さんだの、役所の頭株など云ふ御人達でも、だうかすると部下の陰言を他人の前でなさるやうだが、私共のやうな子供が聞いて居ても、イヤな氣持がするものだ。多勢の前で口汚なく叱つたり、本人の居ない時に陰言をいふたりする主人は、晩かれ早かれ店を閉ぢて夜逃位が落だらう。

□

それにしても、人は召抱る時が大事だ。素性も氣心も碌々調べないで人を雇ふやうでは、後々の折合がつかない。けふは、學校の先生が、態

〳〵十七ぐらゐの子供を連れて來た。店で使つて貰ひたいといふのだ。旦那は喜んで先生の云ふことを聞いて居られた。外に店も澤山あるのに態〳〵此店をたよつて來るとは、之も何かの約束事であらうと、旦那もお忙しい中で、小半日もお相手をなすつた。旦那の小半日と云へば、店に取つては相當金目の時間が消える譯だ。タカが小僧一人雇入れるのに、アツタラ貴重の時間を潰して了ふのは、何となく勿體ないやうな氣がした。ところが、旦那の仰しやるのを聞けば、小僧さんは嬶て店の支配人になるのかも知れない。一生下積になるやうな人間では困るから、叮嚀に手を盡して、それとなく先方に氣づかれぬやう、時間を厭はず試驗を爲さるのだそうな。未來の支配人格を目安にして、小僧さんを雇ふことになると、成程無造作に入れる譯には行かぬ筈だ。

□

斯ういふ御話を伺ふにつけ、吾々一同少しの油斷をしてもならない。商賣は眞劍である。金を儲けるだけではないのだ。商品とお金のヤリトリだけで、何もかも濟むと思うてはならない。商品には必ず無形の景物を添へてあげる。『一に逸早く、二にニコ〳〵、三に三拜、四に心切』、之れだけは忘れぬやうにつけて上げるのだ。

□

今日は、手紙の整理で隨分忙しかつた。毎日諸々方々から來る取引用の手紙も一週間溜めておくと、却々嵩張つて來る。今までは左程氣にもかけなかつたが、ドノ御手紙を見ても、『拜啓愈々御清適奉賀候』と『匆〻頓首』が極り文句になつて居る。

此段貴意を得たき方もあれば、此儀申進めたき仁もある。コンナ事は書かないでも良いのではないかしら。常々旦那から物は何によらず、解剖分析して見るに限ると申聞かされて居る。幸ひ手紙を整理の序に、極まり文句を算へて見た。二百八十通の手紙の中で『愈々御清適』を賀して下さらなかつた分は、僅に三通だけだつた。氣の利いたのは、口語體で用向をサッサと書いて、而も親しみを見せたものであつた。如何にも無駄に思はれたのは、大部分の手紙が書簡用箋の半分以上を餘白にしてあつたことだ。葉書で濟むやうなことを態と封書にしたのもあつた。『愈〻御清適』云々と『匆〻頓首』を省けば、十五字は助かる譯だ。

百通の手紙へ之を乘ずると、千五百字になる。その上、一通毎に行數が二行助かるから、百通で二百行、十行罫紙の書簡用箋二十枚分に相當

する勘定だ。千五百字書く手間は助かり、用箋も儉約が出來るのだから馬鹿に出來ない。旦那に申上げて、之から書簡用箋を、今までの半分につくつて頂かう。

九　日（上天氣、但し風強し）

四つ角で自動車が火事を出して大騒ぎだつた。風はあるし御近所へ火が移りはせぬかと心配した。

○○○新聞の廣告係が寫眞機を持參して、自動車の未だ燃えきらぬ内に、之を寫し撮つた。多分新聞へ出すのだらうと思つて居たが、それにしてもコンナ事を廣告係がやるのはおかしいやうに思はれた。スルト妙な廻り合せで、寫眞一件が、スッカリ分つて了つた。

□

恰度○町の保險會社へ御使に行くと、先刻の廣告係が大急ぎでやつて來た。支配人へスグ取次いで貰ひたいと、息急き切つて居た。事務所の奥から會社の支配人は、何事だらうと案じ顔で出て來た。新聞社の方は洋服のかくしから一枚の寫眞を出して、支配人さんへ見せたものだ。

『一體こりや君、なんだい』と支配人は問ふた。『御存知ないんですか、之は先刻の自動車火事ですよ。ギャソリンの横紙破りといふ奴ですね。チョットした途端に、大枚七千圓の自動車が丸燒です。明朝の新聞へ寫眞入りの記事が出る筈です。支配人さん、此寫眞は社の新聞へ出るものとは少し趣が異つて居ますが、如何です、之を使つて一ページ大の自動車火災保險の廣告を御出し下すつては。』と、如何にも機敏其物のやうな態度で、新聞社の方は廣告掲載の勸誘を試みられた。暫らく寫眞を見て

居た支配人は、『よろしい、御親切に有がたう、では今スグ原稿をつくつて御願ひする。御親切料を拂ふのが當然ですが、マア廣告料を充分御請求下さい。コンナ廣告は原稿次第で必ず利くに相違ないから、一行十圓でも決して不廉ではない。御勉強振りは敬服に堪へません。早速原稿は御屆けいたします。サンキユウ、サンキユウ。』と喜んで御禮を述べられた。

□

私は隨分今日まで多勢の廣告係に御目にかゝつたが、今日の○○○新聞の勉強振りには驚き入つたのである。寫眞とは良くも氣づかれたものだ。道樂氣分で寫眞機を玩ぶ方は澤山居られるが、之を實用的商賣的に使はれたのは見上げた御器量だ。

□

店へ歸つてから早速此事を旦那へ御話申上げた。道々自分もいろ〳〵考へて來たのだ。旦那に御話をして、販賣增進策の實行に寫眞を應用したなら面白からうと考へたのだ。新聞社の方は、廣告紙面の販賣に、寫眞を御利用なすつたのだ。吾々商店員も同じ心意氣でやつて見るのだ。珍らしい商品を寫眞に撮つて、近在の大事な御得意樣へ御見せ申すことも出來る。御結婚の調度一切を、一二枚の種板へ收めて、花嫁さまへ御目にかけるのも良からう。店のMさんと御向ふの番頭さんの腕力沙汰を寫眞に撮つて、其見苦しい姿を見せてやれば、或は喧嘩好きが本心に立返るかも知れない。

良く出來た窓の飾り具合を、後日のため、寫眞に取つておくことも出

來る。

市中の大きな催し事などは、其日の中に寫眞を撮つて窓へ飾れもする。

それからそれへと考へれば、寫眞の利用法は無限である。之は少し費用をかけても、それ相當の收穫は間違ひない。

私は堅い自信を以て、旦那に御許を乞ふた。旦那は喜んで私の願ひを聽入れて下すつた。御秘藏の寫眞機は、斯うして店の營業用に充てられる事となつた。明日からは公然お許の下に、寫眞術の見習に通ふのだ。

廣告と云へば、けふは染々と新聞廣告のエライ力を經驗した。如何にも廣告の壽命の永いのに驚き入つたのである。實は先頃、五十錢奮發して安ものゝ紙入を買つたのだ。勿論安ものだから永くは持たない。それに此間往來の水溜りへ落してからは、兎角、形が頽れがちだつた。それ

が今はたうとう息を引取つたのだ。見れば無慘にも主なる部分は引ちぎれ、臟腑はバラ〳〵になつて、其素性を語つて居た。臟腑の裏打には、何を匿さう、明治三十五年の古新聞を用ゐてある。昨今出來た筈の安紙入に、コンナ古新聞をどうして使つたものだらう。

私は裏打の古新聞を、だまし〳〵剝して見た。丁度日附の下に廣告が出て居る。而も吾々商店に無くてならぬ金錢登錄器の初輸入案内が、横濱山下町のジョンソンと云ふ人の名義で立派に出て居たのだ。『キャッシュ、レージスタ』の日本へ來たのは、して見ると最早二十三四年前の事なのだ。

私は廣告の壽命の永いのに驚いた。そして自分が此事に氣がついた記念として、旦那に此器械を御すゝめした。

十日（雨）

この日は雨降りを利用して、大に讀書を試みた。

本を讀んで忘るゝことの出來ぬ利益を得た。記念のため之を日記中へ寫し取つておく。

『アメリカ中で正に二番目、ニユウヨーク市中で一番大きなデパートメント、ストーアのメーシー商店の主人公ストラウスといふ方は、新たに商賣を始めやうと志す青年に、左の心得八ケ條を嚴守せよと告げられた。

一、一定の主義方針を設けて、飽までも之を堅く守れ。

二、何處までも自分は客の代理人だと思へ。

三、店の位置は、此上なしの場所を選べ。

四、廣告は『眞實第一』と心得よ。

五、同業者の競爭具合に精通せよ。決して之を當て推量するな。

六、雇人や目下のものは、商賣と一緒に育つやうに仕込め。

七、主義方針を堅く守つて行くためには、場合により一時の犧牲を忍んでも、永久の利益を待て。

八、善き評判、善き名聲は、最大の資産である。』

之は強ち西洋人にばかり向くのではない、吾々に取つても實に旨味のある忠告である。

薄利多賣主義とか、少量仕入主義とか、御客大明神主義とか、親切第一主義とか、夫々の流儀も主張もあるとして、扨て之を飽迄守らねば、折角大事の魂が謂ゆる間に合はせものとしか見えない。

□

メーシー商店は現金主義である。たとへ主人の親友が來て、ハンカチーフ一枚の貸賣を求めても即座に之を拒絶する。故に現金取引に不便なピアノの如きものは一切取扱はない。現金を持參するのが面倒なお客は、豫め此店へ相應の金を預けておく。現に昨年中、斯うして三百五十萬弗(八百萬圓餘)の預金を受取つた。言はゞ一種の商品券にも均しい譯だが、之には年四分の利子がついて居る。

預金は一切商品で引出すことになつて居る。但しそれも場合によつては現金で返す。此店は、客の方に如何なる事情があつても、七日過ぎると返品は受取らない。引替は凡て一週間以内のことにしてある。

手袋、沓下、蝙蝠傘のやうなものは、凡て入口に近く賣場を設けてあ

る。一番混雜する地階へは、なるべく美しい女店員を配置して、之を一種の飾り物と見る。化粧品部は、取り別け美しい女店員に受持たせて居る。

□

多い日には、八時間に廿四萬人以上の客が來る。日本とちがつて野蠻的に下足を取らないから、入口を澤山設けることが出來て、四方八方から人が出入する。便利重寶此上もなしである。

二十四萬人の客は、大部分、二階以上へあがらずに出て行く。エレヴエーターは二十臺用意してあるが、一臺一時間の輸送力僅々二百名に過ぎない。二十臺の總輸送力が一時間四千名、一日に三萬二千名どまりである。外にエスカレーターと云ふ自働階段は、日本のものに倍する二列

巾とはなつて居るが、一時間漸く六千名を運び上げる丈だ。

□

左れば機械的の昇降裝置は、兩方併せても一時間一萬人、一日八萬人以上を運び得ない。然るに來客の總數は二十四萬人にも上るのだから、成るべく二階から上へ行かずに濟むやう、日常品の各賣場を下へ設けておく。殊に地下室の販賣方を大事に見て居る。日本では地下室を全く不必要の下足用に取られて居る。馬鹿々々しくて御話にならない。

デパートメント、ストーアと云へば、片假名で書いてあつても、矢張り昔の『よろずや』に過ぎない。吾々の店も、今の内から少しづゝ新しみを加へて、早晩片假名澤山のハイカラ店に變つて行く譯だが、本を讀んだりその道の先生方の御話を伺つたりすれば、別段高等の學校で正式の

教育を受けた人を抱へなくとも、仕事はやつて行ける筈だ。學問のある無いは別として、兎に角頭を使つて油斷さへしなければ、人間の行ける處までは行き着くにきまつて居る。

十一日（降りみ降らずみ）

午前、興信所の調査員がやつて來た。隨分拔目のなさゝうな人だつた。吾々にそれとなく商品の賣行模樣などを聞いて居た。私は先方の質問の隙を覗つて、盛んに逆襲を試みた。それは商家の倒れて行く筋道を聞きたかつたからである。雜誌や書物には、名士の成功談だとか、富豪の立身出世物語ばかりが載つて居るが、失敗談といふものはツイゾ出て居ないやうだ。立身出世の道は、正直と勤勉と、睡つて居ても片目を開いて居る位の油斷無さとを具へ居れば、だうやら行ける處までは行ける筈だ。

成功の處方も結構だが、失敗の研究も肝腎だ。聞けばお向ふの大將、日頃の心柄とはいへ、愈よ手も足も出なくなつたのださうな。雇人を苦めてそれで、繁昌する理屈は無いと思つて居たが、果して參つて了つたのだ。

□

私共の聞きたいのは、失敗の筋道と、そのいきさつだ。中心が外れて、フラ〳〵と倒れる具合を、良く聞いておきたいのだ。興信所の調査員君は、私を見て妙な事を知りたがる小僧だと思つたらしい。

『君は面白い處へ目をつけて居なさる。成功談なら誰でも聞きたがるものだが、他人の破産事件の眞相を知らうといふのは、少し變つてるね。然し本當は、それが一番聞いて置くべき事なのだ。よろしい、御

主人に相談して、皆さんの書休みに、三十分ほど御話をしてみやうかね』と。

調査員君の承諾を得てから、私共は旦那に許可を乞ふた。旦那は無論御承知下すつた。飛んだ良い事に氣がついたと、御褒めさへ頂いたのだ。十二時半から、愈々『失敗物語りと諸君の覺悟』といふ演題で、興信氏の講演が始まつた。流石に裏門から出入して居る御商賣柄だけあつて、速成講師にしては實に上出來だつた。私はいゝ事を澤山聞いた。忘れぬ内に之を日記へザツト書いておこう。

四五年前の春、停車場の近所へ店を持つた○○といふ男があつた。永年問屋で鍛へた腕はあるし、多少の貯金も出來たといふので、一本立ちになつたものだ。問屋の後援も充分だつたから、當分は萬事順調に進ん

で行つた。其内どうやら一萬圓そこ〳〵の餘裕が出來たので、例の月賦販賣をやり出した。問屋からは可なりの我儘もきいて貰へるし、多少の無理はどうにか押通せるだらうといふ見込で、割賦賣りを實行した。成程後勘定といふのだから代物は良く賣れる。六ヶ月目に勘定して見たら前の一ヶ年分に當る品物が賣れて居た。帳面づらでは大儲けである。之で掛拂ひが全部入金すれば、文句は無いのだが、例の一萬圓は客先へ貸た商品に縛られて居るから、問屋へ金を拂ふことが出來ない。

□

皆の皆まで御客が、凡帳面に勘定を支拂つて呉れるものなら、何も案じたことはないのだが、どの道掛けで品物を買ふやうな客だもの、踏み倒すぐらゐは慢性になつて居る。案の條、金は集まらない。問屋もさう

さう面倒は見てくれない。斯うなつて來ると、最期は時の問題である。身の程を知らぬ彼は、遂に倒れて了つた。

資本の力の及ばぬことをすれば、必ず躓くにきまつてる。人間は一度躓くと、容易に立ち直ることが出來ない。

賣れさいすれば、それで良いのではない。永年の老舗を築き上げる原動力の僅に四分の一が販賣力である。物を上手に賣るばかりで、店が繁昌すると思うてはならぬ。世間に良く知れた品物を、無理のない値段で賣るのに、大した工風も老案も不必要だ。それを無理をしてまで、賣らうといふのが抑もの間違ひである。何より大事なのは、計算である。

□

毎月の支出を嚴重に監督して、自分の力量に應じた仕入をするのだ。

商店は、景氣の旺んな時に、失敗の種子を播く場合が多い。不景氣になつて倒れるのは、好況時代に播いた種から生れて來るものだ。之を心得て居りさへすれば、金輪際倒れる懸念はない。譯も分らずに、アメリカ式などというて、途方もない販賣策を實行するものがある。世間をアッと言はせたいが先に立つて、無理な金を借りても使ふ馬鹿が居る。

之からはチョイ〳〵閑を見て、興信所の出張所へ破産物語を聞きに行くことだ。

十二日（晴）

先日、學校の先生が連れて來て下すつた小僧さんは良く働いて居る。今日も何をするかと見て居たら、倉の縁の下から、古新聞紙を澤山持出して、素敵な大形の狀袋を貼つて居た。定めし番頭さんに何か言ひつか

つたものだらうと聞いて見たら、さうでもなかつた。流石に旦那が貴重な半日を費して、入念に試驗をなすつただけのことはある。旦那の御めがねは實に高い。良い人を新規に抱へるのは、身代が殖えたも同然だといつたが、此玉子の小僧さんは、後日支配人に孵へるかも知れない。

目端の利かぬ小僧は、上から言ひつかつた用を足すのが關の山だが、この小僧さんは、自分で或事に氣がつくと、自ら進んで何でもやるやうだ。現にこの大狀袋を貼つたのも、實に見上げた感心な思ひつきからやつたものだ。

□

それは昨日お出でになつた奥樣風の御客樣が、近所で色々〳〵な買物をなすつたものと見えて、小さな紙包みを五六個左右の手で抱へながら、如

何にも御迷惑さうに見えたのを、此小僧さん直ぐ氣づいたのである。御風呂敷は無いやうだし、これから電車なり徒歩なりでおかへりの道すがら、定めし御厄介なことであらうと、其處へ早くも氣がついた小僧さん、一つこれは廢物同然の反古新聞を活かして、斯ういふ御客樣方の便利を計つてあげやうと、さては大きな紙袋を貼ることになつたのだ。

□

成程、ドノ御客樣でも、必ず風呂敷を御持參ときまつたものではなし、さりとて包み紙の大きなものを一々差上げては、何となく態とらしくなる。そこで至極無造作な新聞袋を差上げれば、たとひ他の店で御求めになつた品々でも、之を一とまとめに袋入りにして、お持ち歸りになれる譯だ。

□

旦那は之を頻りに見て居られたが、軈て小僧に『それはお前、アマリ御粗末ぢやないか、却て失禮に當りはせぬか。いつそ印刷屋へ賴んで本式の袋をつくらせた方が、店の廣告も兼ねるから、一舉兩得だネ。費用などはタカの知れたものだ。必ずしも店で御買取りの品物だけに限つた譯ぢやなし、場合によつたら、店の前を御通行の方で、斯ういふ袋を御重寶がる向へば、コチラから進んで差上げたらよからう。なんにしても良いことに氣がついたものだ。店へ御出での御客樣ばかりが御客ぢやない。遲かれ早かれ、市中の御方は必ず一度は御來店下さるにきまつて居る。市民の店なら、市民御一同の便利を別けへだてなく圖るのが當り前だ。一應皆んなで相談しなさい』と智慧づけられた。

□

店は滿場一致で、小僧案に對する旦那の修正案を通過し、愈々風呂敷代用袋をつくることに決定した。ツイ此間まで學校で鼻を垂らして居た小供が、商賣の道へ這入つた二三日目に、店中を動かすやうな事件を持上げたのだ。何といつても人間は考へる者が勝だ。頭を働かせる者が、出世するにきまつて居る。ボンヤリして居ては相濟まぬ事だ。

けふは窓飾に帽子を使つて、大層褒められた。季節向のかむりものを廣告すると云つても、從來のホラ本位の文句で、御客樣をおどかし申しては相濟まぬと考へたから、憚りながら此間から此小さな頭を惱まして居たのだ。折角良い帽子を窓へ出しても、客の頭へピンと來るやうな趣向でなくては、折角賣りたくとも賣れる譯はない。

そこで先年當地で星製藥會社の特約店大會のあつた節、星一さんが店へ來られ、十五圓のソフト帽子を買取られたことを思出した。星さんのことだから贅澤は爲さる筈が無い。定めし其後外國へ御出掛の節、アノ帽子を御持參なすつたに相違ないと考へたから、早速御手紙を差上げて御尋ねした。親切第一の星さんからは、折返して御返事があつた。コチラの考へ通り、アノ帽子を四ヶ月餘の世界一週約三萬哩の旅行中、御冠り通しであつたとの御挨拶があつた。流石に科學的經營法の本尊だけあつて、私の肚の中をスッカリ見透され、大方窓飾りに使用するのだらうといふ譯で、ソノ御帽子を態々御屆け下すつた。

□

私は旦那に此事を申上げて、スグ樣此帽子一個だけを、大窓の中央へ

飾りつけ、

『四ヶ月間、星一氏の大頭を保護して、三萬哩に渉る世界一週旅行を了つた帽子。論より證據、之は弊店が、親しく星一氏の鋭敏なる御めがねに合格して、代金十五圓也を以て差上げた世界的の帽子であります。同樣の帽子を、同樣の値段で、在庫品の續くかぎり御需めに應じます。』

と書いた額入りの廣告文を之に添へて、至極アッサリとした飾り方をやつて見た。星さんの御手紙も一緒に飾つておいた。窓の前は黒山の人だかりであつた。同じ型のソフト帽は、日暮までに七十二個賣れた。

〈十三日（曇天）

星さんのソフト帽は、相變らず御通行の方々を惹つけた。けふも續いてソフトは良く賣れた。

午前十時頃、東京△屋さんの出張販賣人がやつて來た。相變らず妙な風采をして居なさる。コチラの言ふことなどは耳にも入れず、手前勝手の吹聽ばかり喋りつゞけ、主任の迷惑顏に氣がつかぬやうだつた。困つた人もあればあるものだ。無論、店では註文を出さなかつた。

□

店では、毎月十五日頃に、二ヶ月先きの豫定註文表を必ずつくつて置く。旦那の方針で、成るべく少しづゝ頻繁に商品を仕入れることにして居るのだから、何程割の善い條件を持込んで、餘計買はせやうと焦る問屋さんの御勸めがあつても、豫定計畫表以外の代物は、斷然仕入れない。ツマラヌ代物を澤山背負ひ込んで、大事な資本金を縛りつけておくやう

なことは、避けて居るのだ。

□

『上手に仕入れた商品は賣れたも同然だ』と敎へられたことがある。然しながら、一度に商品を澤山仕入れると、資本が充分働かない。それも店が大仕掛で毎日動きのつかぬ程賣れるのなら兎に角だが、吾々如き普通一般の店では、なるべく少資本を良く廻はさねばならないのだ。

少しの資本で多くの商品を、目まぐるしいほど、度々仕入れて行けば、金利は助かり、火災保險の掛金も少しで濟み、イツモ商品は新らしいし、取扱ひの費用もかゝらず、賣殘りや棚古しは出て來ず、隨て値引や返品をしないから、問屋の信用も增し、何かにつけて利益が多い。

□

殊に流行ものなどゝ來ては、一層、少量仕入主義を守つて行くのだ。少量仕入は、資本を早く再々回はして行く意味であるから、自然良品が安く賣れる。資本を回はす都度、利益を少なく見て賣るのだ。

それに又店内の結構や配置を、例の科學的方法で行ふことにするから、少しの品物であつても、之を賑やかに見せることが出來る。無闇に深い棚をつくつて、賣れもせぬ代物をウンと詰込んでおくやうな、時代後れの方法は執りたくない。

□

少しづゝたび〳〵仕入れておけば、第一肝腎の棚卸が樂に出來る。仕入係も油斷が出來ないから、常に仕入れの學問を研究して、ソツの無い方法を講ずる。仕切書の勘定も多額でないから、期日には必ず決濟が出

來る。ドレダケ問屋に喜ばれるか知れたものぢやない。

勘定日に拂へぬやうな品物は決して仕入れないのだ。それにしても、僅の商品を仕入れたのみで、其販賣に手落があつては、それこそ大變だ。

仕入れと販賣とは物の始め終りであるから、販賣法には格別工風せねばならない。これからは奬勵法として、私共に至るまで必ず歩合をつけて貰ふやうにしたい。

配達の途中で註文を頂いた場合にも、勉强料を下げて貰ふのだ。店員が斯うして面白く尻をたゝかれると、勢ひ勉强するから、品物が安く賣れる譯だ。

賣り方が上手になれば、たとへ僅な商品でも、又餘計な品物を揃へておかなくとも、現に手持の分を手際よく賣つて了ふ。此邊の呼吸が研究

ものだ。

□

支拂の用意もせず、商品を矢鱈に仕入れるから、軈てそれが問屋方に迷惑を與へて、不景氣といふものが來るのだと、豫て旦那から聞いて居た。

無方針無算當では、何事も旨く行かない、其場の氣分次第で商品を仕入れると、店は亂雜に陷るばかりだ。漠然とした支拂條件を良いことにして、譯もなく手持品を殖やしては、良品が集まらない。店は賑かに見えても、錢箱はカラッポにきまつて居る。

十四日（晴）

今朝の新聞に面白いことが出て居た。それは大きな電燈會社の社長さ

んが、新聞記者に會つて述べられた御意見である。

『近頃に限つた譯ではないが、兎角世間の銀行會社で、學校の卒業生を社員に採用する時の條件を見ると、在校中の成績を一番氣にして居るやうだ。吾輩の會社ではソンナ方針を採らぬことにして居る。現に此間母校の校長に會ふた節も賴んで置いたことだが、コレカラは毎年六名宛、正直な男のみを、新卒業生中から入れる事にしやうと思つて居る。少し位氣が利かなくとも、白は白、黑は黑と、明言し得る人物が入用だ。入社後の仕込次第で、大概のことは敎へて行ける。然し正直の習慣は容易に注ぎ込めないやうだ。生れつき不正直の人間は、何程手腕があつても、危險で少しの安心も出來ない。今後吾社は、正直な人を第一として、貯蓄心の發達したものをその次に採る。アトは舵

の取りやうで、如何やうにも仕立てゝ行けるよ。』

私は之を讀んでハッとした。實は今朝早く起きて掃除しながら、旦那のデスクの上へ赤インキを、一面にコボして、上張りの羅紗をメチャメチャに汚して了つたのだが、二三人でゴチャ〳〵掃除して居たのだから、實際私がやつたものか、外の誰かの落度であつたか、兎に角罪のなすり合ひをしても、遁れば遁られたのだ。然し正直の話、どうも私の失策らしかつたので旦那に御勘辨を乞ふた。

□

旦那は別段の御叱りもなく、私の申譯を聞いて居られたが、軈てニコニコ笑ひ出された。

「間違は誰でもすることで、別に珍らしくもない。然し圖らずも、此

店にお前と云ふ正直者を得たことは、マア間違の功德かな。言ひ憎いことでも、自分の損になることでも、眞つ正直に言ふだけのことを言へば、それは人間の一德だ。商賣人はウソをついてはならない。數字を大事にする仕事に、僞りは禁物だ。主人の機嫌を取るため、數字のことまでウソをつく店員が居ないとは限らない。之では實に困るぢやないか。お前は今日から店のアラさがしをして、之を私へ遠慮なく有りの儘告げて見なさい。店も油斷して居ると、いろ〳〵の缺點が知らず識らず出て來る。一年に一度や二度は、短所あばきと云ふのをやつて見なければならぬ。

□

成程、さう言はれて見ると、近頃は店にも少しづゝ疵が出て來た。だ

が待てよ、店の疵をさがし出す前に自分の缺點を調べ上げる必要がある。良く他人の事は、根ホリ葉ホリ聞きたがるけれど、人は自分に自分の事をウルサク聞かうとはせぬ。今夜は自分を他人と見てゆる〳〵取調べて見やう。それにしても、取調べの個條書をつくつてウンと油をしぼるかな。

一、お前は一生の目的と云ふものを有つて居るか。
二、お前は正直一方か。
三、品行はどうだ。
四、一生の目的を達さうとして、それに向くやうに勉强して居るか。
五、衞生を守つて居るか。
六、身長と體量はつりあつて居るか。

七、良く喰ひ、良くねむれるか。
八、運動は充分か。
九、神や佛を信心するか。
十、今まで御客様や御主人に言はれたお小言を思ひだして書いて見よ。

模範商店小賣物語 終

大正十四年五月十四日印刷
大正十四年五月廿七日發行

定價金貳圓

著者　池田藤四郎　東京市芝區八幡町二十五番地

發行者　岡本正一　東京市淺草區榮久町卅五番地

印刷者　吉田潔

發行所　厚生閣　東京市芝區八幡町二十五番地　替東京五九六〇〇番

版權所有

東京高等師範學校訓導
千葉春雄著

童謡と綴方

四六版 特製函入 一、八〇 一五

現代の兒童が誤れる主智主義の教育によつて聖なる藝術への憧憬と詩の世界を失ひつゝあるを慨し、彼等の純なる人間性の擁護の爲、情操教育の本流たる童謡と綴方の新しき意義を提唱し此が指導方法を説ける書。

同
千葉春雄著（尋常五年上下 尋常六年上下）

小學詩の讀本

四六版 美本 挿畫入 各、八五 各、〇六

星を讃へ雲雀を歌ひ得ぬ現代の兒童は半ば自然の幸福を失つた者か、餘りに冷智的な現代に只詩の世界のみ彼等を本然の人間につれ還る。童謡と散文詩！ 兒童の魂を自然の聲に憩はしむるは只詩の讀本あるのみ！

厚生閣編

ヤサシイ唱歌（その一、その二、その三、その四、）

四六版 美本 各、五五 各、〇二

情操教育の第一歩として、歌詩作曲振付共に斯道の經驗豊かな諸先生に乞ふて、兒童が容易に理解して、自由に歌ひ自由に踊り得る作品を特選した、全四集、家庭に學校に幼稚園に是非一組を備ふべきである。

醫學博士宮入慶之助序
醫學士眞島隆輔譯
醫學上より觀たる

兒童教育

四六版 上製函入 一、五〇 一三

天才教育、早教育の唱へらるゝ半面、驚く可き不良兒の發生と秀才兒童の夭折とが深甚なる社會的恐怖を釀しつゝある時、著者は現代の臨床醫學の立場から兒童教育の眞義を説き此が徹底的救濟の道を啓示せる書。

宮城縣師範學校訓導
内海靖著（尋常五年）

改正小學國史之教授

四六版 上製函入 三、五〇 一八

改正された小學歴史を堅實なる現代精神と透徹せる史眼に據つて解説せる書。加ふるに主要なる地圖書畫は勿論、史談物語傳記異聞等の參考事項は比類なく網羅され、教授用書として最高聲價を負ひつゝある書。

541
93

終